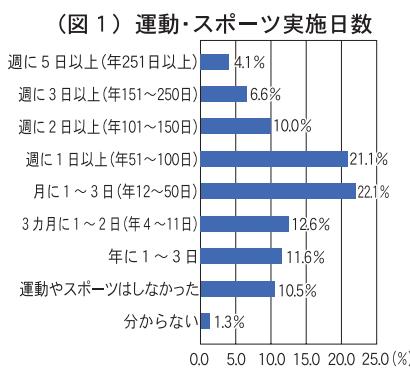
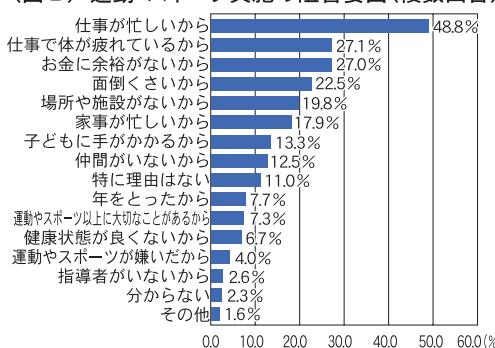


# 神戸 スポーツ実施率は約4割 ウォーキングが最多



(図2) 運動・スポーツ実施の阻害要因(複数回答)



神戸商工会議所は1月9日、スポーツ産業振興の一環として神戸市内の会員企業を対象に実施した「スポーツ実施率・アクティブライフに関する実態調査」の調査結果を公表した。

同調査は2011年10月29日～11月16日、ウェブサイト上で実施された。アンケートを実施し、888人(社員25365人が回答)が「ウォーキング」が38.6%で最多、次いでトライアスロン(33.5%)、自転車(18.7%)などである。実施種目は「ウォーキング」が45.0%、「ランニング」が41.5%、「自転車」が13.5%などである。

運動する人の割合(スポーツ実施率)は41.1%で、週1日以上は41.1%、週2日以上は41.1%、週3日以上は41.1%、週4日以上は41.1%、週5日以上は41.1%である。また、1年間にスポーツ観戦をした人の割合は56.1%。「東京2020オリンピック」は「パラリンピック」に「関心がある」人は75.3%、「体力維持・増進」。「方

事で体が疲れている」「仕事が忙しい」が48.8%、次いで「仕事で体が疲れている」「お金に余裕がない」の順だった(図2)。

運動不足を感じる人の割合は81.3%、運動が「大切である」と答えたものの、実際は仕事に忙しく運動していない状況が分かった。

同所は、「結果を参考に、今後も職場でできる軽い運動を含めスポーツに親しむきっかけづくりや呼び掛けを行っていく」と話している。